

■9月25日

日航、ヘルシンキ線、就航2か月、平均搭乗率70%、乗継旅客は6割

日航は7月1日から就航を開始した成田—ヘルシンキ線について、8月末までの2か月間の平均利用率が約70%、8月のみでは利用率8割を超えたと明らかにした。

利用者の内訳について、当初は乗継旅客が大半を占めると予想していたが、ヘルシンキで乗り継ぐ旅客が約60%、残り約40%はヘルシンキを最終目的地としていたという。

(日刊航空)9/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

エアバス社、今後20年間の最新市場予測、新造機-2万9千機以上必要

欧州の航空機大手エアバスは24日、最新の航空機市場予測(2013年~2032年)「グローバル・マーケット・フォーカスト(GMF)」を発表した。それによると、今後20年間の航空需要が年4.7%のペースで拡大し、2万9,220機以上の新造旅客機および貨物機が必要になる見通し。これは金額にすると4兆4,000億米ドルになる。

そのうち新造旅客機の需要は約2万8,350機で、金額にすると4兆1,000億米ドル。また、新造旅客機需要の約1万0,400機が効率性の優れた航空機への入れ替え需要となる。現在、世界中で1万7,740機の航空機が運航されており、その数は2032年までに倍増し、約3万6,560機に増加する見込みという。

(日刊航空)9/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(WSJ)9/25

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303529604579095742329864958.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303529604579095742329864958.html>)

エアバス社、今後20年、LCC市場21%へ

エアバス社は、24日発表した最新の航空機市場予測のなかで、2032年までにLCCの航空輸送シェアは現在の17%から、21%に増加する見通しだと予測した。

単通路型機は、機数ベースで世界の総引き渡し機数の71%を占め、2万0,242機が今後20年間で必要とされると見込んだ。需要の34%がアジア太平洋地域、続いて北米(23%)と欧州(23%)となる。欧州における低コスト航空会社(LCC)の成功と、アジア、中東、アフリカでのLCCの拡大が同地域の新規旅客数の増加を牽引し、市場開拓に貢献するとしている。(→)

(日刊航空)9/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0925-07.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0925-07.pdf>)

アエロフロート・ロシア航空、成田—ウラジオストック、ハバロフスク線、10月末より運休

アエロフロート・ロシア航空は24日までに、各週3往復をウラジオストック航空と共同運航している成田—ウラジオストック、成田—ハバロフスクの両路線について、10月末の冬季スケジュールから運休を決めた。複数の関係者が共同通信に明らかにした。

成田—ウラジオストック、ハバロフスクの各路線は搭乗客数が低迷、採算ラインに達しておらず、「供給過剰」と指摘されていた。

これにより、ロシア極東の大陸部と日本を結ぶ路線は10月末以降、各週2往復を運航しているシベリア航空と日本航空との共同運航便の成田—ウラジオストック、成田—ハバロフスクの両路線だけとなる。

(47NEWS)9/24

<http://www.47news.jp/CN/201309/CN2013092401001968.html> (->

<http://www.47news.jp/CN/201309/CN2013092401001968.html>)

アエロフロート・ロシア航空、新設航空会社名は「オーロラ」

アエロフロート・ロシア航空の傘下で、ウラジオストク航空とサハリン航空を統合する形で創設準備が進んでいた極東が基盤の新航空会社の名称は「オーロラ」に決まった。24日までにインタファクス通信などが報じた。

同新規航空会社は、統合後、2018年までに運航便数を3倍以上に増やす計画で、今冬の運航開始を目指している。

当初、針葉樹林帯を指す「タイガ」という名称が伝えられていたが、「シベリアのイメージが強い」としてオーロラに変更された。

(産経biz)9/24

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130924/erp13092416290002-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130924/erp13092416290002-n1.htm>)

大分空港、民営化に慎重な姿勢

国が管理する空港の運営の民間委託を可能にする民活空港運営法が成立したが、県は大分空港について現時点では国管理を維持する考えで、民営化に慎重な姿勢を示しており、県は大分空港を民営化しても赤字になると予測。「現状ではデメリットが大きい」とみて、国や他空港の動きを注視しつつ、当面は空港利用者の増加に努める方針だ。

大分合同新聞によると、県が大分空港の2010年度収支を基に行った民営化の調査によると、航空系事業では着陸料収入を滑走路・誘導灯などの管理経費が大きく上回り、約5億4500万円の赤字。非航空系事業は約1億1700万円の黒字だが、全体では約4億2900万円の赤字となる。

さらに現行制度では運営権の売却価格の算出方法に加え、仮に滑走路で大規模な修繕が必要になった場合、誰が費用を負担するのかも不明確なことから、県は「ただちに取り組むにはリスクが大きい」（広瀬勝貞知事）とする。

大分空港では今年に入り、格安航空会社(LCC)のジェットスター・ジャパンが成田線に就航。東京(羽田)線、大阪(伊丹)線が増便された。県は引き続き誘客事業や交通アクセスの改善といった空港利用促進策に力を注ぐ方針。

(大分合同新聞)9/24

http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013_137998406714.html (-> [http://www.oita-](http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013_137998406714.html)

[press.co.jp/localNews/2013_137998406714.html](http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013_137998406714.html))

AMR、USエア、合併完了を延期

アメリカン航空の親会社AMRとUSエアウェイズ・グループは、12月17日に予定していた合併完了期限を少なくとも来年1月18日まで延期することで合意した。同合併をめぐる米司法省が合併差し止め訴訟を起こしており、裁判所の審査に時間がかかるため、合併を延期する。

ブルーンバーグによると、1月17日までに裁判所から合併認可を得られれば、両社は総額140億ドル(約11兆4000億円)に上る合併の完了期間をさらに15日間延長することができる。

アメリカン航空の会社更生手続きからの脱却を目指す同合併計画については、司法省は、両社が合併すれば航空業界での競争を阻害するとして反トラスト法(独占禁止法)に基づく差し止め訴訟を起こしているため、棚上げ状態となっている。

(bloomberg)9/24

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MTLZBW6TTDSI01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MTLZBW6TTDSI01.html>)

(日経)9/24

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM2401P_U3A920C1EB2000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM2401P_U3A920C1EB2000/)

関空、8月利用実績、利用旅客、国際線、前年比1減、国内線18%増

新関西国際空港は、8月の関西国際空港と大阪国際空港(伊丹)の運営実績を発表した。

それによると、それによると関西空港は発着回数が前年同月比2%増の1万1622回となった。旅客便の発着回数は1%減の6226回となったが、8月としては過去2番目の水準であった。

国内線は、旅客便の新規就航や増便などにより、合計で10%増の4163回と引き続き前年を上回った。

旅客数を見てみると、国際線旅客数は前年比1%減の115万6496人となった。4ヶ月ぶりの前年割れで、外国人旅客は17%増の41万5770人と好調であった一方、日本人旅客が8%減の70万6680人、通過旅客が17%減の3万4046人と減少した。

一方、国内線は同18%増の60万1176人と23カ月連続で前年を上回った。発着回数も12%増の3925回と好調に推移している。

【関西国際空港】

◆ 1日平均

区 分	2012年8月	2013年7月	2013年8月
	1日平均 (8/1～31)	1日平均 (7/1～31) [速報値]	1日平均(前年比) (8/1～31) [速報値]
乗入便数(便)	183.4	182.3	187.5 (102)
国際線	122.2	116.7	120.3 (98)
旅客便	101.9	96.3	100.4 (99)
貨物便	19.0	19.3	18.5 (98)
その他	1.3	1.1	1.3 (101)
国内線	61.1	65.5	67.1 (110)
旅客便	56.6	61.8	63.3 (112)
貨物便	1.4	1.5	1.5 (106)
その他	3.1	2.3	2.3 (76)
航空旅客数(千人)	54.2	49.2	56.7 (105)
国際線	37.7	33.1	37.3 (99)
日本人旅客	24.9	17.9	22.8 (92)
外国人旅客	11.5	14.1	13.4 (117)
通過旅客	1.3	1.1	1.1 (83)
国内線	16.5	16.2	19.4 (118)

◆ 月合計

区 分	2013年8月
	月合計(前年比) (8/1～31) [速報値]
発着回数(回)	11,622 (102)
国際線	7,459 (98)
旅客便	6,226 (99)
貨物便	1,150 (98)
その他	83 (101)
国内線	4,163 (110)
旅客便	3,925 (112)
貨物便	93 (106)
その他	145 (76)
航空旅客数(人)	1,757,672 (105)
国際線	1,156,496 (99)
日本人旅客	706,680 (92)
外国人旅客	415,770 (117)
通過旅客	34,046 (83)
国内線	601,176 (118)

(トラベルビジョン)9/22

*新関空プレスリリースより

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58940> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58940>)

(レスポンス)9/24

<http://response.jp/article/2013/09/24/207043.html> (-> <http://response.jp/article/2013/09/24/207043.html>)

(新関空株) プレスリリース)9/22

<http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1812/gaikyou8gatu.pdf> (-> <http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1812/gaikyou8gatu.pdf>)

全日空、UNESCO(ユネスコ)公式サポーターへ、世界初

全日空は20日、世界初のUNESCO(ユネスコ)公式サポーターになったと発表した。公式サポーター記念発表会を、世界遺産登録20周年を迎える白神山地に近い大館能代空港で9月30日に実施する。同社は今後3年間に実施する。同社は今後3年間に、ユネスコへ寄付を行うとともに、世界遺産などユネスコ事業の啓蒙活動への協力していく。この一環で、同社は、マイレージクラブ

会員を対象にマイルによる寄付を募る。

(日刊航空)9/24

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(ANAプレスリリース)9/20

http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/13-ana-unesco0920.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/13-ana-unesco0920.html)

フィンエアー、日本路線、7割が日本から搭乗、L/F80%後半

フィンエアーは24日、6月から代表取締役兼CEOを務めるペッカ・ヴァウラモ氏の就任記念記者会見を開催した。

ヴァウラモCEOは、日本がヘルシンキ以外では最も大きな市場であり、日本路線の旅客の70%が日本から搭乗しているとした。

また、ヘルシンキ成田、中部、関西を週28往復で結ぶ路線は、日本から直行便がない欧州各都市へ、85%がヘルシンキで乗り継いでおり、残り15%が最終目的地であり、日本路線のロードファクター(座席利用率)は、80%台後半であることを明らかにした。

(aviationwire)9/24

<http://www.aviationwire.jp/archives/26294> (-> <http://www.aviationwire.jp/archives/26294>)

(トラベルビジョン)9/24

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58966> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58966>)

台湾、ICAO総会に「特別ゲスト」で参加、国連脱会後初

(産経bizによると)

カナダのモントリオールで24日、国連の専門機関である国際民間航空機関(ICAO)の総会が始まり、台湾の代表団が1971年の国連脱退後初めて「特別ゲスト」として参加した。

沈啓・民用航空局長ら台湾の代表団は、10月4日まで開かれる同総会に「中華台北」(チャイニーズタイペイ)の名義で参加した。

国連専門機関への台湾の参加は2009年の世界保健機関(WHO)へのオブザーバー参加に続く2例目。外交部(外務省に相当)は24日、欧州連合(EU)が出した台湾のICAO参加を歓迎する声明に触れ、参加を支持したEUに対して感謝表明した。

(産経biz)9/25

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130925/chn13092500220000-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/130925/chn13092500220000-n1.htm>)